

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 25 号／令和 3 年 3 月

URL <https://www.n-smeca.jp/>

TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

今こそ変革を！

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

会長 土田 正憲



令和 2 年度第 3 次補正予算において「事業再構築補助金」が創設されました。この補助金は、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するための、新規事業分野への進出等の新分野展開、業態転換、事業・業種転換、事業再編またはこれらの取り組みを通じた規模の拡大等、思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援するものです。予算総額は 1 兆 1485 億円と大規模であり、対象となる中小企業のほか、金融機関や支援機関等からも大変な注目を集めています。また、事業再構築を通じて中小企業から中堅企業または大企業へ成長する事業者を支援する「卒業枠」が設けられており、政府の成長戦略会議の有識者として名を連ねるデービッド・アトキンソン氏の主張を反映したものでは？と思わせる一面も見られます。

さて、話は変わって。企業の成長戦略の策定と実行を支援する。これが中小企業診断士の役割です。コロナ禍の今、我々中小企業診断士はこの役割をあらためて認識し、中小企業の変革を促し、支援しなければなりません。

私は常々、経営とは、未来の「あるべき姿」と「現状」とのギャップを埋めることと申し上げています。しかしながら、未来の「あるべき姿」を明確に描いている中小企業はどのくらいあるのでしょうか。私は決して多くはないと思っています。「あるべき姿」と「現状」とを結ぶもの。それが変革のシナリオであり、成長戦略です。コロナ禍において厳しい状況におかれている中小企業はたくさんあります。そのような状況にある今だからこそ目先の利益にとらわれることなく、長期的な視点をもって未来の「あるべき姿」を描き、その実現に向かって変革を推し進めることが何よりも大切です。中小企業診断士は挑戦する中小企業の成長戦略の策定と実行を支援しなければなりません。それがひいては、中小企業の振興と豊かな社会の実現につながることを私は信じています。

令和 2 年度が終わろうとしています。季節感なく過ぎた 1 年でした。しかし、自分自身を見つめなおす良い機会となりました。私も、多様性をもつ専門家集団である当協会の、未来の「あるべき姿」をあらためて考え、明確にし、その実現に向けて次のステージに進んでいきます。

みなんで力を合わせてコロナ禍を乗り越え、明るい未来を築きましょう！

協会活動報告

「中小企業経営シンポジウム in 新潟」開催報告 広報委員会

昭和23年11月4日に中小企業庁により「中小企業診断実施基本要領」が制定され「中小企業診断士制度」が発足しました。中小企業診断協会では、11月4日を「中小企業診断士の日」とし、その年の11月4日前後に各都道府県で関連イベントを開催することになっています。

新潟県中小企業診断士協会では、令和2年11月18日に創立60周年を記念するとともに、中小企業経営者、中小企業支援機関向けに、中小企業経営に役立つイベントとして「中小企業経営シンポジウム in 新潟」を開催いたしました。

シンポジウムの前半は外部講師による基調講演、後半は当協会会員による分科会を開催しました。

■基調講演

新潟県柏崎市のご出身で、プロ野球独立リーグ「BCリーグ」を設立された株式会社ジャパン・ベースボール・マーケティング 代表取締役 村山哲二氏から『プロスポーツにおけるマネジメントとリーダーシップの重要性』をテーマにお話しいただきました。「BCリーグ」の設立、運営でのご経験をもとに、リーダーシップとは、「理念を持ち、その理念をメンバーへ浸透させ、理念と行動を一致させることである」というお話がとても印象に残りました。

■分科会

【田中洋介会員】

有限会社カクタ田中清助商店 専務取締役
「コロナ禍で老舗茶屋の事業承継を決意！～決意してわかった事業承継の光と闇～」



【平野康晴会員】

ひらの経営支援事務所 代表
「ウィズ/アフターコロナ時代における中小企業のIT化～リモートワークで働き方改革を進めよう～」



【小林和之会員】

にいがた補助金支援センター 代表
「国の支援制度とは？～補助金等の採択に向けて～」



コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小し、参加者48名での開催となりました。

基調講演は、「リーダーシップとマネジメント」、分科会は、「事業承継」、「コロナ禍における中小企業のIT活用」、「企業基盤を強化するための補助金の活用方法」をテーマに開催しました。経営の根幹にかかわるテーマや時代や世相が要求する旬のテーマであったこともあり、参加者の方々の関心、満足度も総じて高く、中小企業診断士協会並びに診断士の役割についての認知に繋がったと思います。

【アンケート結果】

※アンケートの回収率 58.3% 28 人/48 人

Q1. 一般社団法人新潟県中小企業診断士協会の協会会員ですか

はい	8
いいえ	20
無回答	0
合計	28

Q2. 本事業を知ったきっかけを教えてください。

HP	3
チラシ	8
友人・知人	9
他団体	1
その他	5
無回答	2
合計	28

※その他

診断士協会メール、新潟県商工会連合会、NICOM ールマガ、協会会員、協会からの案内

Q3. 本事業に参加する中で企業経営やご自身の業務などで役に立つ情報はありましたか。

とてもあった	13
あった	14
あまりなかった	1
なかった	0
合計	28

Q4. Q3 で回答した理由を書いてください。

また、役に立った情報があればどのような情報が役に立ったか教えてください。

- ・トップマネジメントについての話。
- ・経営理念。BCL 憲章。
- ・チームとしてのパフォーマンスを最大限発揮するためのマネジメント。

- ・BCL 憲章の想いが伝わりました。
- ・経営理念の大切さ。
- ・リーダーシップについて。経営理念に関して。
- ・マネジメントの重要性、理念の制定・定着の重要性を理解できた。
- ・経営理念を基にしたブレない経営・マネジメントの重要性。
- ・経営理念の大切さ、重要性。社会の視点、顧客の視点、社員の視点、会社の視点からの問いかけ。
- ・企業理念の大切さについて再認識できた。
- ・村山社長の話はいいですね。
- ・理念・同じ方向を向くことの大切さが良く分かった。分科会では具体的なツールの紹介が興味深かった。
- ・基調講演の理念やビジョンが何のためにあるのか？を考えさせられたため。
- ・仕事は社会への貢献、子ども(未来)への貢献の為、ということを再認識させられたため。
- ・これからの人たちのために何をすべきかを問う。
- ・分科会 1 にて、承継を決意するポイントと問題点を知れた。
- ・分科会(田中診断士)：財務内容・借入状況もからめた承継事例が参考になった。リアルな話が良かった。
- ・事業承継について。事業継続のため、同業他社と現在協議中の為。
- ・分科会は悪戦苦闘している実際の事業承継の話で、とても参考になった。
- ・中小・小規模企業の IT 化の取り組みの進め方。
- ・テレワークでの働き方について参考になった。
- ・持続化補助金の申請書のチェックを業務として行っているため。
- ・補助金申請について。
- ・分科会が良かった。

Q5. 毎年、診断士の日の前後に当協会主催のイベントを開催しています。

今後、開催してほしいイベントや聞きたい講演、知りたい情報等ありましたら教えてください。

- ・事業承継に関するイベント。
- ・ポスト(アフター)コロナにおける、経営革新。事例紹介(できれば企業経営者からの講演)。
- ・診断士のブランディングを参加者で考える。
- ・今回のようなもの。特に県内で頑張っている方、事業など。
- ・新しい生活様式を保ちながらも、しっかり収益を上げる中小企業経営の方法を知りたい。
- ・基調講演では経営者からの話を引き続き聞きたいです。
- ・診断士の支援のもとで飛躍を遂げた経営者や海外企業の経営者の講演。

Q6. 本事業に参加する前に新潟県中小企業診断士協会を知っていましたか。

はい	25
いいえ	2
無回答	1
合計	28

Q7. 本事業を通じ、新潟県中小企業診断士協会やその活動内容について知っていただけましたか。

はい	26
いいえ	0
無回答	2
合計	28

Q8. その他、ご意見ご感想などがございましたらご自由にお書きください。

- ・大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・貴重な機会となりました。ありがとうございました。
- ・今後も活発な活動を期待します。まだ社会的な認知度は上げていく余地はあると思います。

スキルアップ研修

研修委員長 平野 康晴

令和3年2月20日、21日の二日間、中小企業大大学校三条校において、当協会が主催者となり、令和2年度北関東・信越ブロック「スキルアップ研修」を開催しました。

1. 背景と目的

時代はコロナ一色。このコロナ禍において、ITを活用したビジネスモデルへの転換など、中小企業のIT化の必要性はますます高まっています。

しかし、IT系出身以外の中小企業診断士は、IT支援を不得手としているのが実情です。当協会では、そうした中小企業診断士のIT支援力を集中的に強化する機会を作るべきと考えました。

2. 研修内容

- (1)「デジタル“診断士”トランスフォーメーション～デジタル化で経営革新を進める診断士への変身～」赤塚浩一先生

ITテクノロジーの動向、中小企業診断士が採るべきIT支援のあり方・立ち位置などを講義いただきました。中小企業診断士は、「ITの導入」ではなく、「ITの活用による事業創造・経営革新・生き残り」を支援すべきとの“あるべき姿”を示してもらいました。



- (2)「中小企業診断士の営業活動におけるITの活用」今井進太郎先生

中小企業診断士自身のITを活用した営業活動

総務委員会

委員長 岡田 正博

方法について、ご講義いただきました。「ここまで開示していいの？」と心配してしまうほど、ご自身のノウハウをさらけ出していただきました。

(3)「売上アップのためのWebマーケティングの知識・支援手法」今井進太郎先生

Webマーケティングの基本知識を体系的、かつ網羅的にご説明いただき、中小企業診断士が現場で支援・指導する際の技法やポイントをご教授いただきました。終了前の1時間は、リアル会場とオンラインを融合させ、活発な意見交換・議論が交わされ、大いに盛り上りました。

3. 研修スタイル

会場での対面研修とZoomを使用したオンライン研修を融合させたハイブリッド型の研修を展開しました。対面8名、オンライン10名、計18名（うち、県内11名、県外7名）の方々からご参加いただきました。



4. 成果・効果

アンケート結果は、100%「大変役立つ」の意見で占められました。中小企業診断士による、伴走型での寄り添ったIT支援実現に寄与する研修になったと自負しております。

最後に、この場をお借りして、圧巻の講義を展開していただいた赤塚先生、今井先生、そして開催にあたってご協力いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

今年度の総務委員会の活動は、あまり芳しいものがありませんでした。まず、5月の定時社員総会は、すでに新型コロナウイルス感染症が拡大しており、急遽「できるだけ書面や委任状で」ということになりました。当然ながら総会後の懇親会も中止することとなりました。急遽変更となった総会会場の手配は事務局長が進めてくださり、当方は当日早めに入って受付をする程度だったのですが、書面・委任状の推奨により一般会員の参加はほぼゼロで、結局は議事録作成しかなかったような感じです。

例年、夏季の理論政策更新研修時の懇親会は総務委員会が手配していましたが、今年度からは研修委員会の管轄となり、そちらの業務はなくなりました。もっとも、社員総会と同様、懇親会は行われませんでした。

そして1月の新春講演会および新年会、こちらも途中までは開催の方向で進んでおりましたが、年末年始にかけて関東圏を中心に新型コロナウイルス感染者が爆発的に増加し、緊急事態宣言が発出されたこともあり中止となりました。

このように、今年度において総務委員会はイベント関係においてまったく何も仕事をしませんでした。幸いにも今年度は新入会員が多く、随時書面決議の議事録作成などのバックヤード業務はありましたが、これではいかんと思います。イベントを前面に出て仕切るという性質ではないため、むしろ他の委員会が行うイベントその他業務に、いろいろな役割で手伝いをさせていただく、手伝いをすべき委員会であると再定義し、改めて協会活動に貢献していきたいと考えます。

研修委員会

委員長 平野 康晴



平素は、研修委員会（以下、当委員会という。）の活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。以下、令和2年度の研修委員会の活動についてご報告させていただきます。

ます。

1. 第1回理論政策更新研修

令和2年8月29日(土)、新潟グランドホテルにおいて、当委員会の企画・運営による第1回理論政策更新研修を開催しました。公益財団法人にいがた産業創造機構の統括マネージャー・庭山義彦氏と合同会社ゆわくの代表社員・大山雅己氏を講師にお招きし、新潟県の中小企業政策と中小企業の知的資産経営支援についてご講義いただきました。

2. 中小企業診断士1次試験対策講座

令和2年10月～令和3年5月にかけて、中小企業診断士1次試験の受験対策講座を実施中です。10名の受講生が参加しています。本年度より、リアル講義とオンライン講義（Zoom）を組み合わせたハイブリッド形式で講座を提供しています。

3. スキルアップ研修

令和3年2月20、21日（土、日）の2日間、中小企業大学校三条校において、中小企業診断士のIT支援力強化をテーマに、北関東・信越ブロックのスキルアップ研修を開催しました。講師は当協会会員の赤塚浩一先生と、今井進太郎先生にお務めいただきました。詳しくは、スキルアップ研修の記事を御覧ください。

本年度は大忙しの1年となりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。来年度も引き続き、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

事業開発委員会

委員長 和栗 聖



平素は、事業開発委員会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。令和2年度の事業開発委員会では金融機関および中小企業支援機関との連携強化を主な方針として活動しました。以下にその内容を報告いたします。

下にその内容を報告いたします。

1. 新潟県信用組合様との連携による「けんしんビジネスパートナーシップ事業」の実施

新潟県信用組合様と当協会において、新潟県信用組合様の取引企業に対して、本事業に専門家登録をした当協会会員を専門家として派遣を行う「けんしんビジネスパートナーシップ事業」を継続して実施いたしました。

2. 新潟県商工会連合会様との連携による「令和2年度制度改正に伴う専門家派遣事業」の実施

新潟県商工会連合会様と当協会において、各商工会様の会員企業に対して、本事業に専門家登録をした当協会会員を専門家として派遣を行う「令和2年度制度改正に伴う専門家派遣事業」を継続して実施いたしました。

3. 新潟市様との連携による「中小企業成長支援促進事業」の実施

今年度新たに新潟市様と当協会において、新潟市に事業所を有しテレワーク導入やDXに向けた取り組み等を実施するうえで課題を抱える企業に対して、本事業に専門家登録をした当協会会員を専門家として派遣を行う「中小企業成長支援促進事業」を実施いたしました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により委員会開催および活動が例年に比べて縮小となりました。次年度はコロナ終息を期待するとともに支援機関との連携を強化していきたいと思っております。

また、委員会メンバーも随時募集していますのでお気軽にお問い合わせください。

広報委員会

委員長 佐野 盛也



いつも大変お世話になっております。広報委員会の佐野です。本年度、当委員会では、広報誌

「診断士にいがたSOUP LETTER」の発行、ホームページの運営（情報発信・研

究会ブログ・会員紹介ページの定期的なメンテナンス）、中小企業診断士の日のイベントの運営を行いました。

■広報誌「診断士にいがたSOUP LETTER」

担当メンバー：井村吉孝会員・小林和之会員
協会、研究会、青年部会の活動を中心に記事にしました。来年度は、協会の「個」にフォーカスした記事の充実を図っていきます。

■ホームページ（HP）の運営

担当メンバー：長谷川貴一会員・山崎寛和会員
HPによる情報発信の頻度向上の他、会員紹介ページの定期的なメンテナンスを行いました。

来年度は、ブログページを活用して、協会、研究会、青年部会の活動をタイムリーに情報発信していきたいと考えています。

■中小企業診断士の日のイベントの運営

担当メンバー：広報委員会全メンバー
コロナ感染症の影響が残るなか、規模を縮小して開催致しました。株式会社ジャパン・ベースボール・マーケティング 代表取締役 村山哲二氏から基調講演を、その後、3名の協会の方から分科会を開催いただきました。詳しくは、「中小企業経営シンポジウム in 新潟」開催報告をご覧ください。

最後に、日々ご多用のなか、広報誌の執筆にご協力いただきました会員の皆様、委員会活動にご協力いただきました広報委員会メンバーの皆様改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。来年度も引き続き、宜しく願い致します。

企業再生支援研究会

渡邊 重仁



企業再生支援研究会幹事の渡邊重仁でございます。下半期の企業再生支援研究会の活動報告をいたします。

<令和2年度下期活動内容>

(1) 令和2年10月3日 理論政策更新研修・長岡会場の

運営 事業承継支援をテーマとした研修会を企画、運営致しました。主な内容として、新潟県中小企業再生支援協議会の統括責任者である田中満氏をお招きし、新潟県中小企業再生支援協議会における事業承継支援の取り組みについてご説明頂き、また、専門家による事業承継支援の進め方について、パネルディスカッション形式で討論会を開催しました。

(2) 令和3年2月27日 第2回企業再生支援研究会の実施（参加者：22名）

理論更新研修の運営等の影響で開催回数が減少した為、当診断士協会会員を講師として、テーマ別に2部構成で実施いたしました。

第1部 近藤信会員「コロナ時代の中小企業のサバイバル術 トクして納得する『相続と経営』の話」

第2部 太田竜会員「事業再生・廃業の制度と留意点～弁護士の視点から」



本年度は当研究会会員が6名増え、総会員数は32名と大幅に増加しました。未だ続く新型コロナウイルス感染症にも十分配慮しながら、来年度も会員の診断士活動に資する実践的な研究会を開催して参ります。多数のご参加をお待ちしております。

事業承継・中小M&A研究会

代表 土田 正憲



○研究会の開催報告

今年度は研究会を以下の通り開催いたしました。

開催日：令和2年11月13日（金）

場所：新潟市万代市民会館

演題：経営者保証ガイドラインについて

講師：高野康夫法律事務所 弁護士 佐藤 充氏



○研究会の名称変更について

令和2年11月1日、当研究会は「事業承継・中小M&A研究会」に名称を変更しました。

令和2年3月31日に中小企業庁から公表された「中小M&Aガイドライン」において、中小企業診断士の、中小M&Aにおける役割が明記されました。当研究会は積極的に中小M&Aの支援に関わるとともに支援スキルの向上に向けて取り組んでまいります。当研究会にご興味のある方は、m.tsuchida@ccnslt.com までご連絡をお待ちしています。

実務従事ポイント研究会

代表 平野 康晴

実務従事ポイント研究会は、本年度発足したばかりの新しい研究会です。診断実務に携わる機会の少ない企業内診断士の方を対象に、資質向上と実務従事ポイント取得の機会を提供する活動を行っています。現在、14名の会員が所属しています。

1. 診断実習

本年度の診断先は三条市の製造業者2社。研究会会員を二班に分け、それぞれ指導員の先生にご指導いただきながら、企業診断を実施しました。

診断実習は、経営者ヒアリング、班内ディスカッション、診断報告書の作成、そしてプレゼンテーションまでの診断プロセスを一つひとつ丁寧に実践しました。経営者ヒアリングは会社の問題点、課題などを深掘りできました。班内ディスカッションは白熱。診断報告書は高品質な仕上がりとなりました。熱のこもったプレゼンテーションに、社長達は真剣に聞き入っていました。



2. 成果

社長達からは、「本当に診断をお願いして良かった。診断結果を今後の経営の指針にしたい。」と満足のお言葉をいただきました。研究会会員の皆様も充実した診断経験を積めたと語っています。非常に有益な研究会活動ができたと認識しています。

当研究会では、随時、会員を募集しています。ご興味のある方はお気軽にお声掛けください。

青年部会報告

青年部会

会長 長谷川 貴一



いつもお世話になっております。青年部会の長谷川です。青年部会は令和2年度も昨年度までと同様、会員相互の交流や情報交換を目的として勉強会や会合を行ってきました。青年部会は、

会員同士が直接会って話をすることを大事にできましたので、ご存じの通り新型コロナウイルスの影響が大きくありました。年度始めはしばらく集まって青年部会を開催することができませんでしたが、オンラインを取り入れることで青年部会を開催できました。

令和2年度の青年部会は、すべての会でオンライン参加も可能とすることで、前年度以上の回数の会を開くことができました。どちらかと言うと議題があり、何かの話し合いのために集まることが多くなりましたが、たくさんの会員に参加していただき様々な話し合いや情報交換等を通じて交流をすることができました。移動なしでどこでも気軽に参加できるというオンラインのメリットを存分に活用できたのではないかと思います。来年度以降も直接会うことを大切にしつつ、オンラインのメリットも活用できるような運営を心がけていきます。

また、令和2年度はふたつの外部団体と交流する機会がありました。新潟県中小企業青年中央会へ所属することになり、青年中央会で実施する事業にも参加しました。また、東京都中小企業診断士協会とは、オンライン交流会を開催しました。両団体とも、今後、継続的に連携していく予定となっているため、青年部会の会員とどのような連携をしていくべきか等、しっかり情報共有して、話し合いながら進めていきたいと思っております。

診断士になりたい人を支援する会報告

診断士になりたい人を支援する会

代表 土田 克則

当会は、中小企業診断士を目指す人たちが合格できるように支援することを目的としています。

今年度は、診断士試験自体があるかどうかも分からず、また、会合を開催することも難しい状況で、実質的な活動休止状態となり、気楽に過ごしておりましたが、第1次試験が開催されたので、慌てて、活動いたしました。以下、今年度の活動です。

○8月22日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士6名、なりたい人7名 計13名

○9月12日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士5名、なりたい人7名 計12名

○10月10日「2次試験問題の解き方を研究する会」

診断士6名、なりたい人8名 計14名

○10月16日「情報交換会」

診断士5名、なりたい人5名 計10名

「2次試験問題の解き方を研究する会」では、令和元年度（最新）の過去問に挑戦しました。10月10日の事例Ⅲ、事例Ⅳでは、その年の合格者も参加し、受験生も大きな刺激を受けたかと思っております。

「情報交換会」も久しぶりに開催してみましたが、懐かしい方や、資格取得を考えてんの？といった方にも会うことができ、こちらも定期的に開催しなければ、と思っておりました。

今後も「情報交換会」、「試験問題の解き方を研究する会」、「単なる飲み会」を継続的に開催する予定にしております。メンバーは随時募集しておりますので、次のような方は、是非ご連絡ください。

○診断士の受験生を応援したい方

○（試験）勉強が好きな方

○ボランティア好きの方

○お酒を飲むことが好きな方

○中小企業診断士試験に合格したことがある方

支援を受けたい人も随時募集しております。皆様の周りに診断士を目指している方がいましたら、この会をご紹介いただけますと幸いです。

新入会員紹介

相澤 純



令和2年4月に入会しました、相澤純と申します。出身は神奈川県ですが、転勤で新潟に着任してから県民歴は6年が経とうとしています。現在、食品メーカーの営業職として仕事をしています。

診断士は平成30年に合格し、平成31年に登録しました。新潟の食品製造業、流通小売業は魅力的な企業が多いと感じています。スーパーの生鮮3品（魚、肉、野菜）はとても美味しく、価格もお買い得です。米菓をはじめとした全国的に知名度が高い食品メーカーも沢山ありますが、地域に根差した中小企業にも多くの魅力的な商品があります。また長い面積の県内には、多様な食文化が沢山あることも知りました。ラーメン文化もその一つだと思います。（ちなみに当社マルちゃんの塩ラーメン5袋は新潟では根強い人気でご愛顧頂いています）職業柄もありますが、私は食べることが好きなので新潟は最高の土地柄でとても住みやすい環境です。

新潟県診断士協会に入会後は様々な研究会に参加することができ、先生方に飲み会（オンライン）もお誘い頂き、少しずつですが、診断士としてのあり方を勉強することができました。診断士の価値・魅力を高められている先生方に勉強しながら、新潟の中小企業に貢献することを目標に努めて参ります。しかしながら、今の実力は、よもやよもやで不甲斐なく、穴があったら入りたいくらいです。診断士の責務を全うするべく、心を燃やして鍛錬して参ります。今後ともご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

工藤 泰暢



診断士登録は平成24年2月ですが、今年度の入会です。出身は青森県弘前市です。現在、主にJICAから業務を請け負う、途上国向け農業分野の技術系コンサルタント会社で代表兼コンサルタントをしています。

業務で農業生産に必要な機材・施設等の設備投資や農家の経営についての知識が必要になり、中小企業診断士の資格学習が経営全般について学べると思い勉強を始めました。試験は腕試し程度に考えていたのですが、1次試験に合格したら欲が出て2次試験もと思った矢先、1回目は出張からの帰路、航空会社職員のストライキで欠航、試験に間に合わず。背水の陣で挑んだ2回目です。なんとか合格をもぎ取りました。試験後の、頭がジーンと痺れる感覚は今も忘れません。

会社は東京ですが、20年近く（代表として4年）新潟市の自宅からリモートで業務をしています。協会には興味はあったものの、出張が多く、活動や研究会など参加ができないと思い入会をためらっていました。今回のコロナ禍で海外渡航の中止、国内業務への切り替えを機に思い切って入会しました。すでにいくつか活動や研修に参加させていただき、今ではもっと早く入会しておけばと後悔しています。研究会や研修は非常に興味深く、実例を交えた先生方のお話も大変参考になります。

趣味と言えるものはないですが、体を動かすのは好きで、空手は8歳で始め、10年で一段ずつ、現在は四段です。おかげで出張時に現地で交流することもでき、ラオスでは2年半の滞在中、ナショナルチームのコーチとして国際大会にも参加し、空手競技でラオス初のメダルを持ち帰りました。

協会の活動を通じて皆さまから色々と学ばせて頂き、将来は診断士として新潟で中小企業のお役に立てればと考えております。よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

田邊 直樹



はじめまして、このたび入会させて頂きました田邊直樹と申します。新潟市西蒲区(旧巻町)生まれ、現在は新潟市秋葉区に住んでいます。令和元年度試験に合格、令和3年1月に事務所を開業しました。

前職は、プリンタメーカー専属のカスタマエンジニアとしてプリンタ、パソコン、大型印刷機の修理や設置を担当しておりました。iPadなどのタブレット端末の登場によりペーパーレス化が進み、既に企業の日常では、紙に印刷せずに完結する業務も増え、効率化が進んでいます。その一方で、未だにプリンタ1台壊れると業務の全てが停止するような中小企業を多く見てきました。昨今の脱ハンコ、テレワーク推進で新しい働き方が求められ、ペーパーレス化だけでなく、時代変化にあわせて企業内の業務フローを見直し、効率化をお手伝いするようなお仕事もニーズがあると感じています。

趣味は多いほうですが、毎年7月に湯沢町苗場で開催されるフジロックフェスティバルに行くことを生きがいにしています。また学生時代は野球ばかりしており石川県の高校に寮生活で3年間、野球漬けの日々を過ごしました。野球で培った精神、根性論を貫くことが私の強みです。中小企業診断士試験は合格まで4年かかりました。電卓も触ったことがない、漢字もまともに書けない状況でした。毎日、電卓の早打ちの練習と漢字の練習、足し算、引き算まで戻り、野球の素振り同様に初心にもどり基本練習を繰り返しコツコツ積み重ねていくことで結果を出す。これが私の大事にしている事です。

これから協会活動に積極的に参加させて頂き、先輩会員の皆様の英知に触れ勉強させて頂きたいです。よろしくお願ひ致します。

鈴木 俊雄



はじめまして。令和3年1月から入会させて頂きました、鈴木俊雄と申します。阿賀野市(旧水原町)出身で、現在は新潟市中央区の古町近郊に居住しております。

経歴は新潟大学大学院自然科学研究科生産システム

専攻卒業後、県内のソフトウェア開発会社に入社し、約20年間の間に商品企画・事業企画・ソフトウェア開発・開発推進・品質評価など様々な業務を経験しました。

私の特徴を伝えるため、趣味を3つ紹介させていただきます。

一つ目はアルビレックス新潟の試合観戦です。年パス会員になってから20年を経過しており、大分、広島などへも観戦に行っています。

二つ目は旅行です。20歳くらいから旅行にはまり、アジアやヨーロッパ、遠くはマチュピチュ、サンパウロなどにも訪れました。ほとんどが一人旅で気ままに街を歩くのが好きです。

三つ目はバンド活動です。中学時代からドラムを始め、大学時代・社会人初期はバンド漬け。日本海夕日コンサートに新潟の女性アーティストのサポートドラムとして出演した経験もあります。最近はコロナ禍でバンド活動ができていませんが、これからも活動を続けたいと考えています。

さて、私が中小企業診断士を目指した理由は、自分の力で開拓した楽しい仕事、面白い仕事をしたという想いが高まったためです。その想いを実現するため中小企業診断士資格を取得しようと考え、令和2年度の試験で無事合格しました。そして現在、令和3年夏に独立開業することを目標に鋭意準備中です。専門性を誇れるものがまだない状態での独立で不安もありますが、徐々に実力を蓄え、新潟の中小企業様のお役に立てるようになりたいと考えております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

横山 康之介



初めまして、このたび準会員として入会させていただきました横山康之介と申します。出身はものづくりの街三条市で、氷川きよしや安室奈美恵と同学年の昭和53年早生まれの現在43歳です。

令和2年度の二次試験に合格いたしまして、今後実務補習を経て、今年中には登録の予定でおります。現在は大学病院において、治験・臨床研究支援、産学連携、新事業開発といった業務を担当しております。

大学卒業以来、これまで大学職員として働いてまいりましたが、今後の人生を見据えて社会に通用する網羅的、体系的な知識を身に付けたいという気持ちが徐々に大きくなっていきました。また、学生時代に地方自治関係のゼミに入っていたこともあり、地方創生に関心を持ち続けておりました。これらの理由から、中小企業診断士になることにより、県内企業の支援を通じて新潟県の活性化に貢献できるのではないかという考えに至り、資格取得を目指しました。初めての受験では一次試験で不合格となり、その後業務の忙しさも相まって数年間試験から離れておりましたが、令和元年末から勉強を再開し、本年度に合格することが出来ました。

三条の生まれであるため、製造業にはもちろん関心がありますが、今年で10年目に突入する大学病院で培ってきた経験を活かし、医療やヘルスケア、産学連携分野を中心に診断士活動を行っていかねばと考えております。ただ、大学卒業以来、大学・病院職員としての勤務経験しかないため、ビジネスの現場での実践経験を積みながら、一日でも早く診断士として独り立ちできるようになればと考えております。

今後、諸先輩方からのご指導のほど、何卒よろしくお願い致します。

クリップボード

- ◆令和3年5月29日（土）
社員総会
- ◆令和3年8月7日（土）
理論政策更新研修（新潟会場）
- ◆令和3年8月28日（土）
理論政策更新研修（長岡会場）
- ◆令和3年11月24日（水）
中小企業診断士の日イベント

編集後記

広報委員会

佐野 盛也

広報誌の執筆にご協力を頂きました皆様、広報誌の発行のため、校閲・編集作業・最終確認にご尽力頂きました広報委員会の皆様、土田事務局長、本当にありがとうございました。おかげさまで無事に「SOUP LETTER 第25号」を発行することができました。改めて感謝申し上げます。

先日、ある研修で「ハイポイント・インタビュー」というワークを体験しました。ワークの内容は、三人一組（一人は質問者、一人は回答者、もう一人は二人のやり取りを聞いて、フィードバックをメインに行う人）でインタビューを行い、インタビュー終了後に三人で回答内容の振り返りを行う過程で、回答者の強みや大切にしている価値観の発見を支援する手法のことです。インタビューの内容は「最もうまくいったと思う体験」と「その成果を出すためにどの様な工夫や努力をしたか」であり、私自身、話をしながら「自分自身が、成果を出す上で大切にしている価値観、それに基づいた行動の内容、周囲の反応をどう処理し、どう巻き込んだか」などが整理され、自分自身をより深く理解することが出来たと感じました。自社の強みや大切にしている価値観を発見できていない企業も多いと感じています。同手法を使い、自社理解の支援をしてみたいと思いました。